

令和4年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立田辺工業高等学校

校長名：森下 憲一

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

【目指す学校像】●基礎基本を鍛え、実践する活力あふれる学校 ●知・徳・体の調和のとれた人物を育む学校
●秩序があり、愛情と信頼に満ち、多様な個性と能力を伸ばせる学校 ●社会的、職業的に自立し、変革を創りだすことのできる人物を育む学校

【育てたい生徒像】○自主・自立の精神と高い志をもち、自他の人権を尊び 礼節と品格を備え五心を実践できる生徒 ○自他の人権を尊び、礼節と品性を備え、五心を実践できる生徒 ○文武両道に励み、知・徳・体の調和のとれた生徒 ○郷土・和歌山への愛着と誇りを持ち、地域産業の発展に貢献できる生徒

学校評価の公表方法

ホームページに掲載する

現状・進捗度

A	十分に達成している。	(80%以上)
B	概ね達成している。	(60%以上)
C	あまり十分でない。	(40%以上)
D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（3月7日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善策
1	基礎学力の定着と学習面や生徒指導面の課題の改善	B	基礎学力の定着と学習支援の充実	欠点保持減少 授業中の生徒指導の減少	A	課題を抱える生徒が多く在籍する中、欠点保持者が16.3%であった。教員のきめ細やかな組織的な取り組みが充実してきている結果として捉える。生徒指導については減少してきている。教員の生徒や保護者とコミュニケーション図り、諸課題に対応する場面が多く見られる。	基本的な学習習慣や社会性を身につけるための組織的な取り組みが見られた。特に個々の教員や学年会の自立活動に関わる自発的な取り組みが今後活かされることを期待する。このように学習面や指導・支援の面で生徒をサポートする教職員のスキルアップと施設の充実が今後の課題である。生徒指導や生徒支援については今後も教員全体が協働し、充実を図ることを継続する。ICTの推進については個々のスキルに合わせながら、便利な手法として取り入れるなど、引き続き推進していきたい。
2	「わかやま産業を支える人づくりプロジェクト」の推進と人材育成の体制や学ぶ環境の整備	B	企業や地域の技術者を招聘しての生徒への技術教授を推進	外部講師の活用 地域との共同研究開発	A	地元企業からの講師招聘やNPOとの連携は専門教科の授業で実施した。	産業界で活躍できる人材を育成するために教職員がニーズを理解し、応えていくことが望まれている。（企業アンケートより）資格取得やものづくりにおいては外部人材の活用を積極的に取り入れるなど向上への取り組みが必要である。
			資格取得の向上やコンテストへの積極的な参加	カリキュラムの実現 資格検定取得率の向上	C	資格取得やコンテストへの参加は近年減少傾向にある。積極的な取り組みが必要である。	
			企業説明会への参加やインターンシップの実施	企業説明会への全員参加 企業インターンシップの実現	A	積極的に参加できた。インターンシップについては企業体験の件数ではあるが実施できた。	
3	生徒の自信や自己肯定感を育む事を目的とした積極的な取り組みへの挑戦	B	学校行事の主体的な取り組み	文化祭・体育祭・球技大会・学校説明会の運営	A	コロナ禍でありながら、工夫しながら実施した。	自己肯定感に繋がる様々な取り組みや機会が増えてきている。教職員が良き伴走者として自立した活動を支えていく、環境と仕組みづくりを今後も充実していきたい。
			生徒会による行事の立案と運営	既存する行事の改善・立案・企画・運営	A	これまでの生徒会による改善・立案・企画・運営については積極的に取り組んだ。	
			ボランティアなどの外部機関と連携した企画への積極的な参加	ボランティア・高校生ボランティアへの参加	A	生徒は積極的に参加した。自己肯定感を育む経験となっている。	
4	産業界で活躍できるスペシャリストの育成とそれを支える教職員のスキルアップ	B	企業との連携による先進技術の習得と課題研究での実践	カリキュラムのもとに外部と関わり、学ぶ機会を創造	B	課題研究での外部連携は実践できた。カリキュラム・ポリシーの実践については検証が必要である。	確かな技術や先進技術を身に付け、社会へ送り出す工業教育の実現を目指して、今後も学び続ける教職員集団であり続けることが求められている。スキルアップに向けて積極的な取り組みを期待する。
			教職員の全工協講習会講習等の研修機会の活用	新技術の取得と授業改善 授業を通じた生徒への還元	C	コロナ禍であることから、活用することは困難な状況であった。	
			現職教育を開催し、専門知識・技術の共有とスキルアップ	現職教育や校内研修の開催 資格検定への挑戦	B	本年度より開始された自立活動について学ぶ機会が増えた。	

学校関係者評価（3月6日実施）

【外部アンケート】

- A 十分である B ほぼ十分である C あまり十分ではない D 改善を要する E あまり知らない
- 本校は、「特色ある学校づくり」に努力が見られ、生徒や保護者にとって魅力があり信頼できると思われますか (A 60% B 40% C 0% D 0%)
 - 本校は、「生徒の健康管理」や「校内の環境美化」「施設の整備」が行き届き、快適で安全な学校生活を送っていると思われますか (A 20% B 70% C 10% D 0%)
 - 本校は、「生徒会活動」や「クラブ活動」に熱心に取り組む生徒が多く、楽しく学校生活を送っていると思われますか (A 50% B 50% C 0% D 0%)
 - 教職員は、「わかりやすく工夫をした授業」を行い、お互いに協力して情熱をもって教育活動に当たっていると思われますか (A 40% B 50% C 10% D 0%)
 - 教職員は、生徒へ気軽に声かけなどを行い、模範となる言動で生徒が社会の一員として身につけるべきことを適切に指導していると思われますか (A 50% B 50% C 0% D 0%)
 - 教職員は、「保護者や来訪者に対して誠意をもって対応」し、気軽に相談に応じるなど信頼できると思われますか (A 50% B 40% C 10% D 0%)
 - 「インターンシップ」の導入など、地域での職場体験活動が積極的に行われていると思われますか (A 45% B 45% C 10% D 0%)
 - 本校は、「気軽に来校しやすく」「保護者や地域と連携」して様々な教育活動を進めようとする雰囲気があると思われますか (A 20% B 70% C 10% D 0%)
 - 本校は、よく「保護者や地域の意見を取り入れて」教育活動を行おうとしていると思われますか (A 11% B 78% C 11% D 0%)
 - 本校は、地域の行事等に積極的に参加するなど、さまざまなかたちで「地域交流」を行おうとしていると思われますか (A 33% B 56% C 11% D 0%)
 - 本校は、「学校便り」や「ホームページ」など各種連絡文書で学校の教育活動がよく知られていると思われますか (A 50% B 30% C 20% D 0%)

【企業アンケート】

- ～5. 企業情報
- 工業高校採用の有無：(88%)
- 工業系の卒業生の印象：①専門知識が身に付いている(35%) ②働き方が良好(30%)
- 工業系の卒業生の求める能力：①コミュニケーション能力(43%) ②安全意識・行動、礼節(各28%)
8. の具体的な内容：工業高校でしか学べない工具などの取り扱い、粘り強い気力
8. についてのご意見：対人能力、意欲、ものづくりの楽しさ、協力、スキル、資格
11. 在学中に必要な経験や体験について：キャリア研修、アルバイト、学生生活を楽しむ、チーム、団体行動、ブラモデル、学校生活、インターンシップ、基礎基本、部活・委員会
12. 本校に期待する学校運営について：①従来の基礎基本②時代に応じた技術③安全教育
13. 11. の具体的な内容：なし
14. 必要だと思われる学科改編やカリキュラム編成について：①従来の内容の深い学び②先端技術③実社会に応じた内容
15. 13. の具体的な内容：なし
16. 「新しい分野の学習ができる学科の設置」について：IT・AI・RPAに長けた人材育成、土木系、ビジネス能力
17. 体育系部活動について：①部活動で身に付くことがある②両立③部活動は必要④自主性に任せたい方がより
18. 17. の理由：学業あつての部活動、強制された部活動より自主性をもった学び、人格形成に差、健康維持・体力づくり程度、チーム全体のことを考える、必須とは考えない、社会性が身に付く、コミュニケーション能力が身に付く、集団生活・目標達成、両立が高校生活を華やかに、礼節、成長できる場、部活動だけではなく学業も、人間関係構築、異年齢コミュニケーション、人間力、部活動に偏らない
19. 本校の進路指導に対するご意見：礼節を含めしっかりした生徒が多い、先生が企業のことを知り指導して欲しい、50年働く企業を指導して欲しい、地元・Uターンの指導に力を入れて欲しい、熱心に指導、先生方から「世界に目を向ける」くらいの指導を、生徒に寄り添った指導を、丁寧な対応
20. 専門学科の教職員について：①企業や社会情勢を把握した進路指導を②高い専門性を有していること

